

音楽研究部会研究報告

テーマ「主体的に音楽に関わり、豊かに表現できる力を育てる音楽教育」
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた音楽の授業について～

1 はじめに

音楽研究部会では、今年度のテーマを「主体的に音楽に関わり、豊かに表現できる力を育てる音楽教育」、サブテーマを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた音楽の授業についてとして研究に取り組んだ。具体的な活動として、第1回は、一年間の研究計画の検討と小・中・高それぞれに分かれて「コロナ禍における各校での音楽の取組の工夫」についてグループ討論を行い、各校における新学習指導要領に基づいた指導について意見を交わした。第2回は、授業公開（動画）及び研究協議、各校での情報交換等を行った。第3回は、講師を招き「新学習指導要領における音楽教育」について講演会を行い、次年度の計画について確認した。

2 研究報告

(1) 第2回研究部会 12月1日（木） Zoomによるオンライン開催

① 授業公開

題材名「iPadで音楽を変身させよう！」 中学部3学年Aグループ 音楽

発表者 県立大宮北特別支援学校 大島 太陽 教諭

② 指導案より（抜粋）

ア 題材設定の理由

（生徒観）本題材の授業では、学年を実態別のグループに分けて実施しており、本グループは男子6名で構成されている。積極的に音や音楽に関わり音楽活動を楽しむことができる一方で、音楽を形作っている要素を聞き取ることが苦手であったり、音楽表現をするためにつなげることが難しかったりする生徒が多い。また、音楽づくりの活動では、取り組んでいる内容が個々で完結してしまう傾向にあり、新しい音楽表現を見つけたり試したりすることが難しいといった課題が見られる。

（題材観）本題材は「特別支援学校学習指導要領各教科等編（小学部・中学部）第4章第5節〔音楽〕○2段階（2）内容 A 表現 ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。」の内容をもとに設定されている。

授業の初めには、『一粒の種（中島正人他作詞・下地勇作曲）』に合わせたストレッチを毎時間取り組む。ゆるやかなテンポの曲に合わせてストレッチを行うことで、心を落ち着けて十分にリラックスした状態を作り出し、音楽の授業へと気持ちを切り替えることをねらいとして扱う。

本題材ではiPadにインストールされている『Garage Band』という音楽制作ソフトを使って編曲に取り組む。本ソフトに内蔵されている自動演奏機能やビートシーケンサー機能を活用することで、音楽表現をするために必要とする基本的な技能の習得をタブレット機器の操作に置き換え、自己の表現に費やす時間を増やして活動の幅を広

げることができる。

本ソフトの導入教材としては第2次に『かえるの合唱（岡本敏明訳詞・ドイツ民謡）』を扱い、あらかじめ録音されたメロディに合わせて管弦楽器による伴奏や副旋律を重ねていくことで編曲をする。

第3次の授業では、生徒一人一人から事前に聴き取ったお気に入りの曲を教材として扱う。複数のコードを用いた編曲になるため、管弦楽器による編曲については教員が必要に応じて支援に入り録音する。

（指導観）本題材の指導にあたっては、音楽づくりに必要となるタブレット機器の操作を覚えられるように電子黒板を用意して操作の流れを適宜提示していく。また、表現したいイメージを言語化するのが苦手な生徒に対しては、絵カードなどの視覚支援教材を多く取り入れ、活動に見通しがもてるように配慮する。音楽制作ソフトを使用した活動では、管弦楽器の自動演奏パターンを選ぶ際にどのような曲想を作りたいのか、または編曲したものについてどのように感じるのか教員と対話したり、生徒同士で聴き合って感じ方を伝え合ったりする体験を積み重ねることで、音楽づくりの発想を得る機会を意図的に設定する。ビートシーケンサー機能による編曲では、作成できるリズム楽器の種類は3つ、リズムの長さは2拍までという枠組みを作ることで、リズム・パターンの感じ方の違いや楽器の重なり方に着目して編曲できるように設定する。また、作品の発表では生徒同士で使っている楽器やリズムについて、気に入ったものがあればスクリーンショットなどで保存して共有できるように進めていく。

これらの学習を通して、自分の思いを表現する経験を積み重ねることができると考える。そして今後行う音楽活動でも、協同して新しい表現を見つけたり試したりすることを目指し、より豊かに音楽を楽しめるようにつなげていく。

イ 共通目標

○音色やリズムの特徴とその面白さを理解し、即興的に音を選択することができる。

【知識及び技能】

○音楽制作ソフトでの編曲を通して、音楽づくりの発想を得ることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○進んで音楽づくりに取り組み、協同して音楽活動する楽しさを感じる。

【学びに向かう力、人間性等】

ウ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

○生徒の興味・関心が高い教材を扱う。

○教員の支援が少なくなるような教材作りをする。

○取り扱う音楽の要素を取捨選択し、ねらいに即した題材を設定する。

○音楽づくりをする過程で発表の機会を何度も設定し、生徒同士で聴き合ったり意見を述べたりする時間を作る。

エ 展開

配時 (分)	学習内容(生徒の活動)	○支援 ※指導の意図(ねらい)	★備考 (用意するもの)

<p>1</p> <p>◎ はじめの挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの音に合わせて「お願いします」 		<p>○「静かに」といった意味を持つ音型(ドシドシド)を決めて音で提示することで、次の音に集中できるようにする。</p> <p>※和音の I (ドミソ) で「気をつけ」、V (ソシレ) で「札」など、響きの違いや移り変わりを感ずることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボード
<p>3</p> <p>◎ 本時の説明、導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを確認して見通しを持つ。 		<p>○これまでの学習が想起できるように簡単な振り返りを行う。</p> <p>※教員の質問に答え、これまでの学習が想起できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・
<p>3</p> <p>◎ 「ストレッチ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせてストレッチを行う。 		<p>○十分にリラックスできるように適宜声掛けを行う。</p> <p>※気持ちを落ち着かせることで本時の取り組みに集中できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CD
<p>10</p> <p>◎ 「iPad で音楽を変身させよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確かめ、ビートシーケンサー機能の説明を聴く。 		<p>○電子黒板に注目するよう声掛けを行い、ねらいを達成するために注意事項を確認する。</p> <p>※身体の動きを通して、拍やリズムを感ずることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・iPad
<p>いろいろな楽器、リズムで音楽を変身させよう</p>			
<p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを作成する。 ・作品の発表を行う。 		<p>○いくつかリズム・パターンの例を提示して、どのような感ず方の違いがあるか確認する。</p> <p>○選択する楽器によっても感ず方が異なることを全体で確認する。</p> <p>※思いを持って楽器を選択したり、リズムを作ったりすることができるようにする。</p> <p>○他の生徒の取り組みが共有できるように適宜発表する時間を設定する。</p> <p>※自分の思いにあった音楽表現を見つけることができるようになる。</p>	

7	◎ 本時のまとめをする。	○本時のねらいが達成できたか、 編曲した作品を聴いて簡単な振り 返しを行う。 ※教員の質問に答え、本時の学習 が想起できるようにする。	
1	◎ おわりの挨拶 ・ピアノの音に合わせて「あ りがとうございました」	○ピアノの音に集中できるように する。 ※和音の響きの違いや移り変わり を感じることができるようにする。	

③ 研究協議

ア 授業者より

機器の不具合により、授業の全てをお見せすることができないが、ご容赦いただきたい。「主体的・対話的で深い学び」のために、生徒が興味を持つこと、目標があること、自分で選んだり決めたりすること、理解して一人で取り組めることを意識して授業に取り組んできた。コミュニケーションツールを用意すること、共有したい成果物があること、認め合う空間があることが「主体的・対話的で深い学び」につながると考える。授業について忌憚のないご意見をいただきたい。

イ 研究協議

「一人一人が iPad を上手に活用しており、先生も慣れていく様子で進行もスムーズであった」「生徒が Garage Band の使い方をよくわかっている、iPad の使用方法やルールを先生がしっかり伝えているうえで成り立っている授業だと感じた」「Garage Band の使い方がよくわかった」（使ったことがある人が少ない）などの感想が挙げられた。また、「選択肢がわかりやすいが、形容詞とリズムを一致させるのが難しいと思った」「クロムミュージックやペイントーン（ウェブサービス）を使用している、Garage Band を合奏のコードに参加・楽器として使用する等の工夫をしている」などの情報提供もあった。「著作権の指導について」の質問に対して「全く教えていなかったので反省。今後指導していきたい」との回答があった。また「授業形態について」の質問に対して「コロナ禍なので少人数指導で行っているが、iPad は実態別である方がねらいを高く設定できるので効果が高い。成果物を実態関係なく共有する場は設定している」との回答があった。

(2) 第3回研究部会 12月20日(火) Zoomによるオンライン開催

① 実践報告会

「主体的に音楽に関わり、豊かに表現できる力を育てる音楽教育」～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた音楽の授業について～をテーマにレポートを作成し、学部ごとに3つのグループに分かれて実践報告会を行った。「イラストや色楽譜を使う工夫」「ICTを使った提示方法でわかりやすさを出す」「iMovie やフィギュアノート等のICTによる工夫」など、各校で工夫している様子が見られた。一方で「ICTも必要だけど、著作権に注意する必要があることや本物に触れる機会が減るというデメリットもあ

る」との意見もあった。

② 講演会

講義「新学習指導要領における音楽教育」

講師 埼玉県立東松山特別支援学校 嵐山学園分校 参与 鹿倉 朋宏 氏

鹿倉先生からは、「新学習指導要領における音楽教育」ということで新学習指導要領に基づいた音楽の授業についてご講義いただいた。新学習指導要領では、インクルーシブ教育などの背景もあり以前の学習指導要領とは目標が大きく異なり、説明責任が問われること、表現及び鑑賞の活動、音楽的な見方をするのが大事なこと、多様な音楽体験や音楽経験に触れること、共通教材を忘れないことなど、音楽の授業を行うにあたって大事なことをたくさん教えていただいた。歌うことは音楽の原点であるので、コロナ禍だが適切な感染対策をとり、歌を歌っていくことが大事であることも教えていただいた。また、ICTの活用も取り入れつつ、生の音は大切にしていけるべきだと教えていただいた。教科書も新しくなり、共通教材も押さえられているので活用していくことを勧められた。新学習指導要領により目指すところが明確になってきているので、よりよい音楽の授業をしてほしいとお話があった。

3 おわりに

昨年度に引き続き、コロナ禍ではあるがZoomによるオンライン会議という形で音楽研究部会を実施することができた。今回も各校の研究部員に直接会うことはできなかったが、各校がコロナ禍の中でも様々な工夫をしながら授業をしている様子をZoomの画面共有機能を使用することによって、画像や動画で共有して視聴することができた。

今年度は埼玉県立東松山特別支援学校嵐山学園分校の鹿倉朋宏参与をお招きして、新学習指導要領における音楽教育についてご講義をいただいた。昨年度、新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた上で指導計画を立てている学校が少なかったため、貴重な勉強の機会となった。ICTを活用した音楽の授業は増えてきているが、生の音を聴くことや歌を歌っていくこと、共通教材を取り上げていくことなど、大切なことをたくさん教えていただくことができた。

今回の音楽研究部会での学びをそれぞれの先生方が各校に還元してくことで、埼玉県全体の音楽教育がさらに活性化していくことを願っている。